

# くつろぎサロン通信

2013年1月18日 第7号  
発行 十和田市立中央病院内  
がん患者と家族の会事務局

## 十和田緩和ケアセミナーで体験談を発表



宮崎県「かあさんの家」  
の市原美穂さんと一緒に

去る10月29日(土)当院別館2階講堂で第12回十和田緩和ケアセミナーが開催されました。在宅で見取りをした家族の立場から、当会副会長の中野渡昭子さんが胃がんで亡くなられたご主人を自宅で看取られた際のお話をされ、その内容は病院嫌だったご主人が病名告知を受けてからの闘病の様子や、なによりご自身が在宅診療を希望され、いろいろな人に支えられながらご自宅で過ごされた様子をそのときの心情などを織り交ぜて詳細にお話くださいました。例会でも度々お話を伺う機会もありましたが、改めて在宅介護・在宅での看取りがとても身近なものに感じ、ほんの些細な生活の営みも大切に支え合えるものなのだと気づかされました。また、昭子さんご自身もご主人が発病する前に悪性疾患で闘病歴があり、そのときに牧師であったご主人が自分の命をかけて妻を助けてほしいと毎日祈りを捧げたというエピソードに胸がつまる思いでした。ご主人がなくなってからちょうど3年が過ぎ、このセミナーで話せたことがまたひとつ気持ちの区切りになりましたと笑顔をうかべておられたのが印象的でした。

がん相談員 新谷 明子

## 12月例会 クリスマス会

今年も寒さに負けず暖かな雰囲気の中、ハーモニカ・うた・おどり・ゲームなどでみなさん楽しみました。



## 地域医療推進協議会に参加することになりました くつろぎサロン会長 坂下 優

昨年の11月小山田久十和田市長が会長となり十和田地域医療推進協議会が発足し、当サロンも地域サービス検討部会の一員として参加することになりました。この会は市民が安心して健康で生活できるよう地域医療について関係機関や市民団体等との協議の場を設置し、機能分担と連携に取り組み、各々が一体となって地域医療の推進を図る目的があります。12月19日には2回目の会議で地域医療に関するアンケート調査の実施について協議されました。その後千葉県東金市で地域医療の取り組みをしている藤本晴枝さんが「橋をかけよう～NPO法人地域医療を育てる会の取り組み～」と題して講演されました。医療現場の実情を情報誌で地域住民に伝えることの大切さを力説され、今後の課題として行政からの一方通行ではなく市民と医療・行政が相互通行でなければならないと理論的に裏づけられた有意義な話でした。

### 編集後記

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願いいたします。昨年は未曾有の大震災に見舞われほんとうに大変な年でした。そして今まだ消えぬ悲しみや苦しみの中で復興が少しずつ進みつつあるなか、そのような状況で生きていくためには、やはり絆の大切さや支えあう心がなにより必要なのだと実感させられました。これからもみなさん手を取りあって歩いていきましょう！

問い合わせ先 十和田市立中央病院がん相談支援センター  
☎0176-23-5121 内線(3145) くつろぎサロン事務局 高野真弓

☆これが私の気持ちです☆



くつろぎサロン会員 田嶋 敏子

私の病名は胃がんです。初期ではありません、進行しています。3年前の6月、市の健康診断の再検査結果でした。明日検査入院して下さいと連絡を受けましたが、頭が真っ白になり何がなんだか分からないまま、主人に「がんだって、明日入院...」と涙で声になりませんでした。毎年検査を受けて異常なしだったのに、初期ならまだしも進んでいるなんてと自分の病気に納得がいかず、なかなか受け入れることができませんでした。内科での検査後、外科病棟に転科。外を眺めてはもうこれが見納めなのか、家族とはもう暮らせないのかと思いがこみ上げ、涙があふれ不安でたまらない気持ちになりました。私は先生に何回もどうしてこうなったのかとわけの分からない質問をしましたが、先生はそのたびに温かく受け止めてくださいました。病棟師長さんも毎日のように病室に来て話を聞いてくださいました。また、担当看護師さんの優しい笑顔、回診時の先生方の優しさに気持ちが少しずつ落ち着いてきました。手術の説明も執刀医から家族に納得がいくまで説明をしてくださいました。私は先生に「主人ともう少し一緒に暮らしたい、末娘の孫をみるまでは生きていたい、先生に命を預けますので宜しくお願いします」と伝えた瞬間、気持ちがスーッと楽になり、ようやく自分の病気を受け入れることができました。手術後麻酔から覚めた時「無事終わったよ、悪いところは全部取ったからもう心配ないよ」と手を握ってくださった先生の手ぬくもりと、そばで見守ってくれた家族の顔を見たときに「生きていてよかった」「諦めないでよかった」と心底思いました。退院後、抗がん剤を2年近く服用(副作用のため一時中断しながら)しました。しばらく家に閉じこもり悶々としていましたが、がん患者会設立時に会員となり今では「くつろぎサロン」が私の生活の一部となり、心のオアシスとなっています。仲間とおしゃべりをしたり、不安になって落ち込んだときにすぐ相談室にいった話をきいてもらうとほっとして気持ちが落ち着きます。これからは、目的をもって仲間の皆さんと前向きにすすみ、笑顔で素敵ねといわれるように4年目にむかって発進していきたいと思えます。

